広報 いわき

41.10月号
第1号

毎月1回1日発行(定価1部2円)

私たちのまち

人口	333,881人
男	163,674
女	170,207
世帯数	77,296

いわき市誕生
十四市町村が合併

新市発足宣言

明治二十二年町村制施行以来、永い歴史と伝統を受けついできた常磐地方十四市町村が、大同合併し、本日ここに「いわき市」として発足したことを内外に宣言する

昭和四十一年十月一日

いわき市長職務執行者
赤津庄兵衛

あすのいわき

風光明美な太平洋に面して小名浜港があり、京浜地帯に2時間半でいけるという最も恵まれた位置にある新市は、この有利な条件をじゅうぶん活用して工業開発を進め、総合的な工業地帯の建設をはかるとともに、農林漁業の構造改善をはから、また商工業の近代化を推進して産業、経済、文化と調和のとれた〃豊かで住みよい都市〃建設を目ざすことが当面の新市に課せられた任務であり使命ではないでしょうか。

いわき市の時間
▽市政だより
毎週月火水木金土
NHK第一放送
午前11時55分
▽市民ニュース
毎週月火水木金土
RFC午前9時30分

■編集と発行　いわき市文書広報課　いわき市平字三崎町1　電(024622)大代表2111

新産業都市いわき市建設へ
市民の熱意と開拓精神で

いわき市長職務執行者　赤津　庄兵衛

市民のみなさん「いわき市」誕生おめでとうございます。新市発足にあたり、ごあいさつを申し上げる機会を得ましたことは、私のもっとも喜びとするところであります。

思えば、明治二十二年に町村制が施行されてから七十有余年、永い歴史と伝統を受け継いできた各市町村が、新産業都市指定と同時に合併することを申し合わせ、昭和三十八年十月に合併協議会を結成して、三年の間、行財政全般にわたり慎重審議を続けて参りましたが、互譲の精神によって幾多の困難事を克服して、ここに三十三万市民をようする〃大いわき市〃の誕生を見ましたことは、行政史上まれに見る快挙であって、ご同慶にたえません。これらは市民各位をはじめ、政財界及び各種団体、報道関係者各位のご協力と、国及び県知事を始め特別委員、県職員各位のご厚情の賜ものと存じ、ここに謹んで感謝の意を表します。

さて、新市は、ご承知のように、本日をもって、東北第二の都市として力強い第一歩をふみ出したのであります。従いまして、今後は東日本の産業、経済、文化の中心都市として、各種施設の整備を行ない、県勢発展のかなめとして、また東北開発の拠点都市として、重要な役割りをはたす立ち場にたったのであります。

申すまでもなく、広域行政の目的は、各市町村の垣根をはずし、ムダをなくして強力な財政力を養い、公共施設の拡充整備をはかって、豊かで住みよい都市を建設することにほかなりません。新産業都市「いわき市」建設のためには、どうしてもみなさんの熱意と開拓精神が必要であります。そして、願わくば各々の産業が発達して、豊かで、健康で、文化の高い「いわき市」が、一日も早く建設されますよう、なお一層のご協力をお願い申し上げ、ごあいさつとします。

【赤津市長職務執行者経歴】
明治二十八年二月四日生まれ。磐中卒。現在植田信用金庫理事長。
旧石城郡勿来町長二期、福島県議会議員二期、福島県公安委員会委員、勿来市長二期、昭和四十一年自治功労者として勲五等双光旭日章を受賞。

新市名の由来

当地方は昔から石城、岩城、磐城と呼ばれ、いずれも「いわき」と読まれてきた。かな書きにしたのは混乱をさけるためであり、由来は聖徳太子十七条憲法の条項にある、「以和貴」（和を以って貴となす）を音読みしたもので、新市の一体的発展を象徴している。

合併を祝って

福島県知事　木村　守江

新しい「いわき市」の誕生を心からお喜び申し上げます。

当地方は、本県のみならず、東北地方南部における地域開発の拠点として、その将来が注目されているところであり、とくに昭和三十九年三月、新産業都市としての指定をうけて以来、新産業活動が活発に行なわれ、新産業都市建設が本格化して参っております。

このようなときにあたり、関係市町村が、大同合併をいたしまして、郡山市とならんで、常磐・郡山地区の両軸としての役割りをじゅうぶんに果たすことができますことは、まことに御同慶にたえません。県といたしましても、新市の発展のためにはじゅうぶんに御協力を申し上げる所存でありますが、関係各位におかれましても、一致協力、市政伸展と住民福祉の向上のため、さらに努力をされますよう期待するものであります。

新市にふさわしい市長を
十月二十日選挙を目標に

新市が発足してから五十日以内に新市長を選挙しなければならないことに法律で定められています。選挙されるまでの間は、旧市町村長の互選によって、市長職務執行者を選び、選ばれた人が代理者として事務の処理を行ないます。投票日や、投票所については、新市の選挙管理委員会によって決められます。新市の有権者数は四十年十二月現在で約十九万七千人となっています。

▼市長選挙は一番身近な選挙です。自分でよく考え、自分の信念のもとに、必ず投票いたしましょう。

▼投票日が近づいても、投票所の入場券が手もとに届かない場合は、直接支所まで申し出てください。

平	地区	43,090
磐城	地区	35,581
勿来	地区	27,504
常磐	地区	23,809
内郷	地区	22,625
四倉	地区	12,215
遠野	地区	5,397
小川	地区	5,169
久之浜	地区	3,283
好間	地区	7,661
三和	地区	3,985
田人	地区	3,300
川前	地区	1,905
大久	地区	1,520

合併に関するおもな協定事項

▼合併の時期
昭和41年6月1日
（県段階で10月1日となる）

▼合併の範囲
五市四町五村

▼合併の方法
対等合併

▼新市の名称
「いわき市」

▼議員の任期と定数
現在の市町村議会議員の任期は二年とし、新市の議員となる

▼財産の取り扱い
新市に引き継ぐ。ただし、田人、川前については財産区の新設を認める

▼新市事務所
平市三崎一番地におく。恒久的な事務所の位置は新市発足後に決める。方法については県及び県議会に一任する

▼農業委員会の取り扱い
市町村の区域に、地区農業委員会をおく

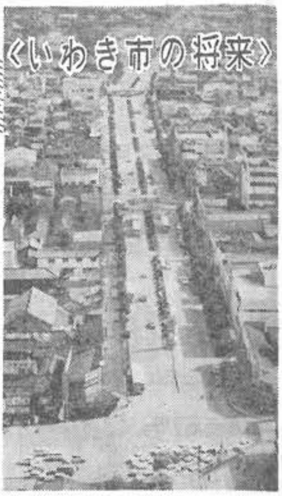
▼支所、出張所の位置、名称、区域
現在の市役所、町村役場を支所とする。位置は現在の所在地をあてる。名称は現在の市町村名を使用する。所管区域は現在の市町村の区域とする

現在の支所、出張所、連絡所は、出張所、連絡所として経過措置期間はそのままとし、経過措置期間後は、廃止を原則として統廃合する

▼職員の取り扱い
1、特別職（三役、教育長）
市町村長は参与、助役、収入役は参事、教育長は参事、または一般職となる。参与、参事の任期は二年を限度として、残任期間とする
2、一般職
現員現給で、新市に引き継ぐ

▼財政経過措置期間
会計年度をもって三年間設ける。ただし、情勢の変化により短縮することもあり得る

豊かで住みよいまちづくり〈いわき市の将来〉



いわき市将来の設計は、昭和五十年を目標に二千三百億を投じて①産業が発展し豊かで②市民ひとりひとりが健康で安心して暮らせる都市をつくることをねらいとしています。そこでいわき市建設の根幹事業のあらましをお知らせして、みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

▼工業用地造成

新市の工業出荷額を昭和五十年時点でとらえると、三千三百四十四億円と三十七年の約十倍に当たり飛躍的に発展が予想されます。そのため、小名浜港を中心に臨海部には港湾利用の重化学工業を、内陸部には関連産業の労働集約的工業、即ち軽工業を考えており、埋め立てと買収で六百二十五㌶の工業用地を造成する計画です。

▼港湾の整備

産業の発展によって小名浜港の貨物取り扱い量が年々増加しているため、また石油、非鉄金属を中心に、各種工業などの進出が予想されるので、港湾施設を整備します。

そのほか江名、中之作、久之浜港の整備と勿来港の新設につとめます。

▼道路交通網の整備

建設事業の中でも特に道路交通網の整備は重要で、国道、県道、市道の新設、拡張、舗装工事を始め、産業バイパスの新設をはかって、物資輸送の円滑化をはかります。

鉄道については平以北の電化、複線化と、磐東線の軌道強化、さらに小名浜臨海鉄道の拡充を要望します。

▼水資源の開発

市内の河川は重要な用水源としてじゅうぶんに利用され、需要をみたしていますが、産業の進展によって人口増が見込まれています。

また工場進出、農業利水などによっても、相当な用水需要が予想されるので、磐城工業用水の拡充をはかるとともに、多目的ダムの建設をはかります。

▼通信施設の整備

通信施設は近代都市への発展要因であるので、電話需要の充足と市内電話の完全自動化を強く要望します。

▼国土保全

鮫川、藤原川、夏井川などを中心に、河川改修、砂防、治山事業を始め、海岸保全事業の整備をはかります。

▼商工業施設の整備

商工業は体質改善の進行とともに、なおいっそう発展していくものと予想されますが、都市計画などにより、近代的な商店街を造成する。また中小工場については設備の近代化、経営管理の合理化、企業規模の適正化を推進します。

農、水産物については中央卸市場、魚市場を新設して、食生活の安定をはかります。

▼農林漁業施設の整備

人口の増加が予想されると同時に、生産物の需要の増大も予想されるので、農作物の流通機構がより整備されて、近郊農業としての有利性が期待されます。これらをじゅうぶん活用して、農業の近代化、経営の企業化を実施して農家所得の増大をはかります。

農業構造改善事業を中心に、土地改良事業、農道の整備、牧野造成など総合的に計画を進めます。

林業については、林業構造改善事業を中心に林業基盤の整備や造林などを計画的に進め、森林組合の経営体制の強化をはかります。

漁業については、水産物の需要が促進されるので、沿岸漁業の構造改善事業を中心にそれぞれの地区に適応した方策をたて、漁業振興をはかります。

▼住宅・住宅団地の造成

昭和五十年までに予想される住宅需要数は、約五万三千戸と見込まれています。都市計画や、上、下水道の計画と平行して、団地造成をはかって一世帯一住宅の実現をはかります。

▼上下水道の整備

上水道は昭和五十年には一日当たり二十万六千ｔの需要が見込まれるので、施設の拡充整備をはかるとともに、施設の一本化につとめ、効率的運営をはかります。下水道事業については、集排水区域の拡張をはかるとともに、終末処理場を拡充整備します。

▼都市環境の整備

現在の市街地は、自然発生的に膨張した平面的な形態をとっていますが、土地区画整理事業、市街地改造事業を通して理想的な市街地の実現をはかります。

▼文教施設の整備

児童、生徒を収容するために必要な学校教育施設を充実するとともに、社会教育施設、体育施設など文化施設の整備をはかって、健康で、良識ある社会人の育成につとめ、文化水準の高い都市づくりにつとめます。

▼衛生施設の整備

健康にして文化的な日常生活を営むため、清掃施設を整備して汚物の迅速な処理をはかる。また未設置地区の環境を整備するため計画的に拡充整備をします。

▼福祉厚生施設

民生の安定に重点をおき、現在ある各種施設とあわせて、福祉施設の整備強化を進め、均衡ある福祉都市の実現をはかります。

▼観光レクリエーション施設の整備

日常生活が安定するにつれて娯楽に対する関心が高まって来るので、観光施設の整備がより以上に要求されます。当市は非常に豊富な資源を有しているため、市外からの行楽客も年々増加してきています。山岳、渓流、海岸、温泉をじゅうぶん活用して、観光都市実現のため、各種施設の整備につとめます。

市役所ご案内

支所の事務は従前どおり

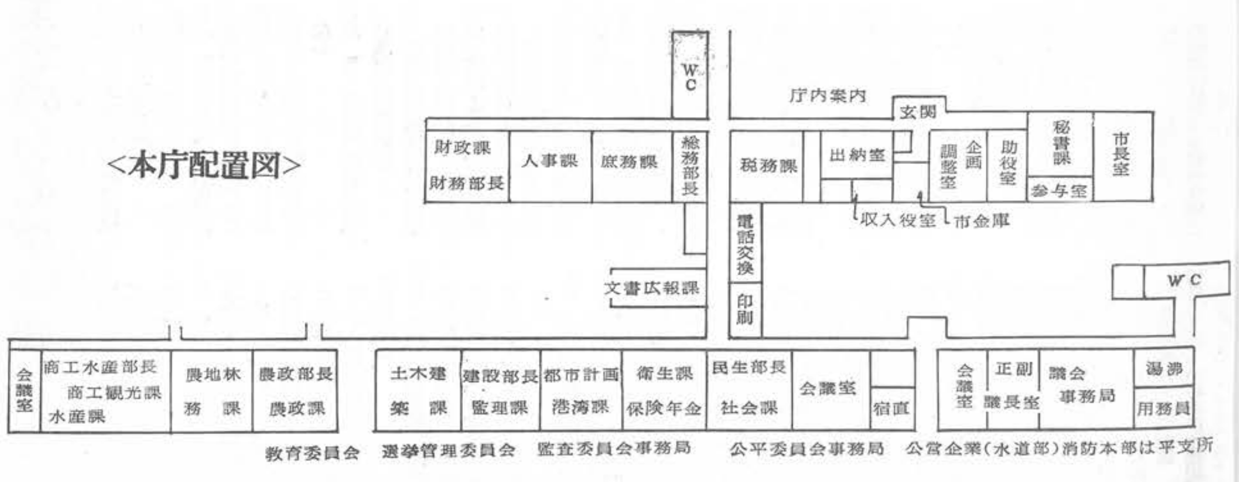
「いわき市役所」が一日から開庁しました。

ご承知のように、市役所は平字三崎一番地、もとの平商業高校あとの校舎を使用しております。各部、課、室などは見取図のとおりです。

▼各支所は、旧市町村の市役所、役場を使用します

▼これからは本庁と、支所で、事務が行なわれますが、市民の皆さんと直接関係のある事務はすべて支所で取り扱いますから、支所で用件を済ませてください。

<本庁配置図>



教育委員会　選挙管理委員会　監査委員会事務局　公平委員会事務局　公営企業(水道部)消防本部は平支所

いわき市を中心に

第五回 福島県芸術祭が開幕

県芸術祭が、新市発足を祝って「いわき市」を中心に開かれることになりましたので、開催内容をお知らせします。

この催しはことしで五回目で、すぐれた芸術文化の公演発表を行なって芸術の創造と進展に寄与するとともに、広く県民の皆さんに見てもらい、福島県の文化の向上をはかることを目的としています。

毎年九月から十一月にかけて、音楽、演劇、美術、文学、舞踊、映画、生活芸術、その他の八部門にわけて行なわれています。

＜いわき市で行なわれる催し＞

▼音楽祭
雅楽公演
10月3日（月）平市民会館
午前10時　午後一時半
入場料A　席五〇〇円
B　席三〇〇円
高校生一〇〇円
中学生　五〇円

▼文学祭
10月30日（日）磐城市民会館
会費　作品集一〇〇円
昼食五〇円　パーティー代二〇〇円
・短歌大会　午前10時半
・俳句大会　午前9時
・川柳大会　午前10時
・詩　大会　午前9時半
・創作評論大会午前10時半
事務局はいわき市小名浜字蛭川新川間62電②三三五三
小名浜公民館内
県芸術祭事務局

▼舞踊祭
11月10日（木）平市民会館
法村友井バレー団公演

▼演劇祭
11月20日（日）平市民会館
三曲演奏

▼映画祭
テレビ映画　福島テレビ
そのほか協賛行事として
10月22日23日　第19回全日本合唱コンクール東北大会
平市民会館
10月30日　第5回日本舞踊協会県支部公演、平市民会館
▼11月の行事として
県演劇コンクール　磐城市民会館
いわき絵画展　湯本公民館
平芸術文化祭　平市民会館
などが行なわれます。

新市の知識

面積は日本一

人口は東北で二番目

十月一日をもって発足した当市は、一躍三十三万人の市民を有するマンモス都市になりましたが、全国で数ある市の中で、どんな地位にあるのか調べてみましょう。

※人口では何といっても八百八十九万人を有する東京がトップで、②大阪③名古屋④横浜⑤京都⑥神戸が六大都市として上位にあり当市は兵庫県西宮市、金沢市に次いで二十四番目です⑳岐阜㉑新潟㉒西宮㉓金沢㉔いわき市㉕千葉市、となっています。

※面積では、今まで札幌市が一〇〇八平方キロで日本一でしたが、いわき市が誕生したことによって順位が入れ変わり、当市が一二二八・五三平方キロで一位となり、以下②札幌③芦別④紋別⑤稚内、と北海道勢が続いています。

※東北には六十一市ありましたが、常磐五市が合併したことで、五十七市になりました。その中で人口からみて一番大きいのが仙台市の四十八万で、次が当市の三十三万、以下③青森④郡山⑤秋田⑥山形の順です。

※福島県内では当市が県面積の約一割弱を占め、面積、人口、名実ともに最大の都市になったわけであります。これによって、十四市が十市になり、順位は①いわき②郡山③福島④会津若松⑤須賀川⑥白河⑦原町⑧喜多方⑨相馬⑩二本松、となりました。

※参考までに旧五市の全国人口別順位をみると平一八九位、磐城二一〇位、勿来三二〇位、常磐三九一位、内郷四六四位でいかに「いわき市」が大きいかわかると思います。

お知らせ

国鉄から

常磐・伊豆号が2日から走ります

秋の旅行シーズンを迎えて、国鉄では臨時列車常磐伊豆号を新設しました。それによると、平から下田まで直通電車を、10月2日から11月27日まで、毎日一往復運転するそうです。

日帰りの旅にご利用ください。

電報電話局から

電報は市内扱い
電話は従来どおり

合併して町村も市になり大変広くなりました。今までは隣村だったけれども、10月1日からは14市町村が全部市内ということになります。

電報については「いわき市」内に打つ場合は市内扱いになりますが、電話は、交換局内だけ市内扱いであとは従来どおりです。

郵便局から

新町名をはっきりと

十四市町村の名称が「いわき市」となり、町名も一部変更になったために、区分けの作業がいそがしくなります。市外から来る郵便はほとんど旧町名で来ると思いますので、できるだけ相手方へも正しく知らせるようご協力ください。

新市発足までのおもな経過

【昭和28年9月25日】常磐地方総合開発期成同盟会を結成、常磐地方の開発を推進することになった

【昭和36年】
8月　常磐五市が広域・基幹都市建設計画調査区域に指定された

【昭和37年】
2月　新産業都市のための計画協議会を設けた
3月　広域・基幹都市建設促進協議会総会で「常磐地方新産業都市建設促進協議会」と改称、発展させることを申し合わせた
5月　「新産業都市建設促進法」が制定された
　常磐地方新産促進協議会で十二市町村が大同団結することを決めた
7月　常磐地方新産業都市促進協議会第一回総会で双葉郡久之浜町、大久村を加えることを決めた
9月　県議会新産特別委員会で新産業都市として、常磐・郡山地区を、一本として申請することを決めた
12月　四市の商工会議所会頭会常磐五市の合併促進を要請した
　平市議会で、各市町村に先がけ合併促進を決議

【昭和38年】
2月　常磐地方新産業都市建設促進民間協議会が結成された
3月　常磐・郡山地区の新産業都市指定陳情が次第に活発となる
6月　県下市長会、町村長会で新産指定実現を決議
　新産業都市指定獲得、県民総決起大会を開く
7月　常磐・郡山地区が新産業都市に内指定された
　新産協議会役員会で新産関係市町村が、合併促進することを決議
8月　新産関係市町村長会議で合併促進することを決議
9月　合併促進協議会を設けることを決めた
10月　常磐地方市町村合併促進協議会設立総会を開き、合併事務局を県石城事務所内に設置した
12月　合併協議会に組織、調整、財政企画、行政の各委員会を設置し、各々作業にはいった

【昭和39年】
1月　各委員、先進地視察
2月　各委員会、所管事項の審議にはいった

【昭和40年】
2月　合併協議会役員会と、組織委員会の合同会議で、合併の時期は41年中を努力目標とすることを決めた
5月　役員会で、合併の時期を41年6月1日として各委員会とも審議を進めるよう要請があった
7月　役員会、組織委員会の合同会議で、合併の時期は41年6月1日を目途とし、合併する市町村の範囲は十四市町村とする。合併方式は、対等合併とすることに決めた

【昭和41年】
2月　県議会新産特別委員会が現地に出向き、各市町村に合併時期、新市名、仮庁舎の位置についてあっせん案を提示した
4月　合併協組織委員会で、新市名を「いわき市」、仮庁舎の位置を平市内、本庁舎の位置は新市発足後に決める。方法については県及び県議会に一任するを確認した
・27日合併協議会総会で合併協定事項を決議し、三十日各市町村一斉が合併議決を申し合わせた
・29日遠野町議会で合併議決
・30日十三市町村議会で合併を議決
5月　4日十四市町村合併申請
・16日県議会で常磐地方十四市町村の合併を議決、合併の時期は十月一日と決定
・28日自治大臣合併を告示
6月　1日「いわき市」発足準備事務局を旧平市三崎一番地旧平商業高校あとに設置
10月　1日「いわき市」発足。開庁式を平市民会館で挙げる